

2024 年 6 月 2 日

臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

上部消化管粘膜下腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法に関する多施設後ろ向き観察研究

2. 研究責任者 海南病院消化器内科 國井 伸

3. 研究の概要

上部消化管粘膜下腫瘍は日常臨床でしばしば遭遇する疾患の一つであり、上部消化管内視鏡検査において、0.8～2%の症例で偶然発見されると報告されている。超音波内視鏡検査（EUS）所見のみで診断することは困難である。そのため、超音波内視鏡観察下に針を穿刺し、組織を採取する超音波内視鏡下穿刺吸引法/生検法（endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration ; EUS-FNA/endoscopic ultrasound-guided fine needle biopsy ; EUS-FNB）が行われている。EUS-FNA や EUS-FNB の診断能、検体採取率については多くの論文で報告されているが、その多くは膵疾患やリンパ節など多彩な患者背景を含んでおり、上部消化管粘膜下腫瘍のみを対象とした多数例の報告は少ない。上部消化管粘膜下腫瘍に対する EUS-FNA 及び EUS-FNB の診断能を明らかにすることを目的に研究を実施する。

4. 研究方法

①対象となる患者さん

2007年9月1日～2030年3月31日に上部消化管粘膜下腫瘍に対して EUS-FNA もしくは EUS-FNB を施行した患者さん

②使用する試料等

カルテ情報：年齢、性別、既往歴、抗血栓薬の内服の有無、病変部位、病変の主座、病変の発育形式、術前診断、内視鏡画像、内視鏡画像所見、超音波内視鏡画像、超音波内視鏡画像所見、CT 画像、CT 画像所見、EUS-FNA/FNB 施行日、腫瘍径、穿刺回数、検体採取率、免疫組織化学染色による評価が可能な組織診検体の有無、穿刺時の吸引法の

有無（シリンジによる陰圧、slow pull）、迅速細胞診の有無、術中及び術後の偶発症（出血、播種、腹膜炎、感染、膿瘍形成など）、最終病理診断、悪性度及びMIB-1（GISTの場合）、診断確定方法（FNA/B、生検、粘膜切開生検、手術）、施行後経過、術者の経験年数、術者の経験症例数、使用スコープ、使用穿刺針、穿刺針径、使用観測装置

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 消化器内科 國井 伸
電話：0567-65-2511（代表）